

連続講座

移住者の権利キャンペーン2020
「ここにいる koko ni iru.」企画

移民二世からの研究発信

外国から出稼ぎ労働者が来日するようになって30年が経過し、日本で育った子ども世代のなかから、「移民研究者」が誕生しています。「移民」を、みずから経験してきた研究者たちは、自分たちを対象としてきた先行研究をどのように読み、研究者としてみずからはどのようにアプローチしていくのでしょうか。

第6回目は、「ハーフ」をテーマとして、下地ローレンス吉孝さんとケイン樹里安さんからの報告と、竹沢泰子さんと古屋哲さんからのコメントです。

報告1: 下地ローレンス吉孝

(港区立男女平等参画センター)

「日本人」と「外国人」の二分法を問い返す
—「混血」「ハーフ」の社会史から—

報告2: ケイン樹里安

(大阪市立大学都市文化研究センター・桃山学院大学・大阪国際大学)

「ハーフ」の問題含みの日常をいかに描けるか
—関西のメディア・コミュニティを手がかりに—

コメンテーター: 竹沢泰子(京都大学)

古屋哲(大谷大学・立命館アジア太平洋大学)

日時: 2018. 10. 6 Sat. 14:00~18:00

場所: 京都大学人文科学研究所101号室



申し込み不要・無料



主催: 上智大学グローバルコンサーン研究所

共催: NPO法人移住者と連帯する全国ネットワーク貧困対策プロジェクト・立命館大

学生存学研究センター、大阪大学大学院人間科学研究科附属未来共創センター

問い合わせ先: Tel: 070-6519-1391 E-mail: inabanana@gmail.com (稲葉)

